

# 感染症について

## 医師の意見書が必要な感染症

いぶきのPreSchool  
いぶきのほしぞら

病名	登園基準	主な症状	潜伏期間
			原因
麻疹 (はしか)	解熱3日後	38度前後の熱と風邪症状から始まり、解熱し始めたかと思うと再び39度以上の高熱が出て発疹が出る	10~12日
			麻疹ウイルス
風疹	発疹が消失してから	カタル期・発疹期・回復期と分類。ガイドラインあり	8~12日
			風疹ウイルス
水痘 (みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化してから	発疹は体幹から全身に出現。痒みが強い	14~16日
			水痘・带状疱疹ウイルス
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺・顎下腺・舌下線の腫脹が出現して5日経過し、かつ全身状態が良好になるまで	発熱、片側ないし両側の唾液腺の痛性腫脹	16~18日
			ムンプスウイルス
百日咳	特有の咳が消失するまでまたは5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	感冒様症状からはじまり、次第に咳が強くなる。1~2週間で特有な咳発作になる	7~10日
咽頭結膜熱(プール熱) アデノウイルス咽頭炎	主要症状消失2日後	39℃の発熱、咽頭炎。結膜炎、涙が多く眼脂が多い	2~14日
			アデノウイルス
結核	医師により感染の恐れがないと認めるまで	発熱・咳・呼吸困難・チアノーゼなど	2年以内
			結核菌
インフルエンザ	症状が始まった日から5日経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで	突然の高熱。全身症状(倦怠感・関節痛・頭痛など)	1~4日
			インフルエンザウイルス
腸管出血性大腸菌感染症	症状が始まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便で陰性が確認されたもの	激しい腹痛、頻回の水様便、さらに血便	3~4日(1~8日)
			腸管出血性大腸菌(ペロ毒素を産生する大腸菌)
流行性角結膜炎	感染の恐れがないと認めるまで	結膜の充血・腫れ・眼脂・流涙。耳前リンパ節の腫脹と圧痛を認める	2~14日
			アデノウイルス
急性出血性結膜炎	感染の恐れがないと認めるまで	結膜下出血	1~3日
			エンテロウイルス
溶連菌感染症	抗菌薬内服後24~48時間経過していること	突然の発熱、咽頭痛。粟粒大の発疹が出現	2~5日
			A群溶血性レンサ球菌
感染性胃腸炎	嘔吐、下痢などの症状が治まり、普段の食事が取れること	嘔気・嘔吐。下痢 (乳幼児は白色便であることが多い)	1~3日/ロタウイルス
			12~48時間/ノロウイルス等

## 流行時や症状によっては出席停止の措置が考えられる感染症

(症状によっては、医師の意見書の提出をお願いする場合があります)

病名	登園の目安	主な症状	潜伏期間
マイコプラズマ肺炎	発熱や激しい咳が治まっていること	風邪症状がゆっくり進行し、咳が徐々に激しくなる	2~3週間
手足口病	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事が取れること	水疱性の発疹が口腔粘膜、四肢末端に現れる	3~6日
伝染性紅斑 (りんご病)	全身状態が良いこと	軽い風邪症状後、頬が赤くなったり、手足に網目状の紅斑が出現。	4~14日
ヘルパンギーナ	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事が取れること	突然の高熱、口蓋垂(のどちんこ)付近に水疱疹や潰瘍形成	3~6日
突発性発疹	解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと	39度位の急な高熱が3~4日続いた後、解熱とともに体幹部を中心に鮮紅色の発疹が出現	約10日
伝染性膿痂疹 (とびひ)	全ての発疹が痂皮化または浸出液がある場合は覆う	湿疹や虫刺され痕を搔爬した部に細菌感染を起こし、びらんや水疱病変を形成。病巣は、擦過部に広がる。1cm以上越える大きさのとびひは意見書が必要	2~10日
伝染性軟属腫 (水いぼ)	露出するところは覆う	直径1~3mmの半球状丘疹、泡粒大のいぼができる。接触感染する為、露出部分は覆うか、数が少ないうちに医院でとってもらうことが望ましい	2~7週間
RSウイルス感染症	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと	感染力が強く、症状が軽くても感染源となりうる。乳児期早期では、細気管支炎、肺炎で入院となる場合あり	4~6日
带状疱疹	全ての発疹が痂皮化してから	水疱が形成されている場合は感染力が強い。水痘に対して免疫のない児が带状疱疹の患者に接触すると、水痘を発症する	不定
単純ヘルペス	いつも通り食事が取れ、水疱が痂皮化してから	歯肉口内炎、口周囲の水疱。	2日~2週間
あたまじらみ	家族全員で駆除が必要	多くが無症状、吸血部分に痒みを訴えることがある。家族内でも伝播する。	10~14日